

横林地域づくり計画書

【令和5年～9年】



～元気がこだまする山美湖の郷より～



『可能性は∞霧源大』

横林自治振興協議会

令和5年3月

【1】はじめに、横林地域の概要

横林地区は、愛媛県南予地方、西予市の東部にあり、市中心部より車で約45分、県都松山市より約1時間15分のところに位置しています。

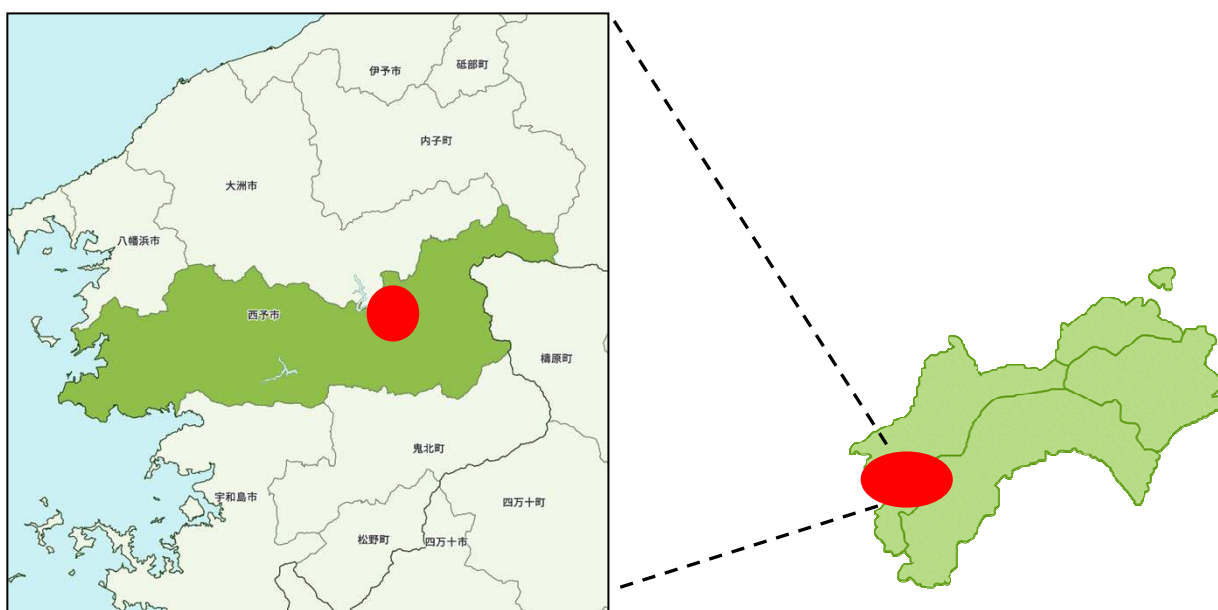
地域の中心部には、船渡川・黒瀬川・宇和川が合流し、鹿野川ダムへと繋がる県の自然公園にも指定されている坂石湖水があります。また、地域のほとんどは山林で占められ、急峻な山々の丘陵地や段丘には、家々が集まり集落を形成しています。

かつて横林地域は、大洲市長浜港へと物資を運搬する川舟があり、上流域のさまざまな物資の集荷地として、旅館・商店・各種娯楽施設が多数存在し、活況を呈していた時代もありました。

しかし、人口減少に歯止めの掛からない現在、地域の実情に即した将来を見据えた取組がこれまで以上に求められています。

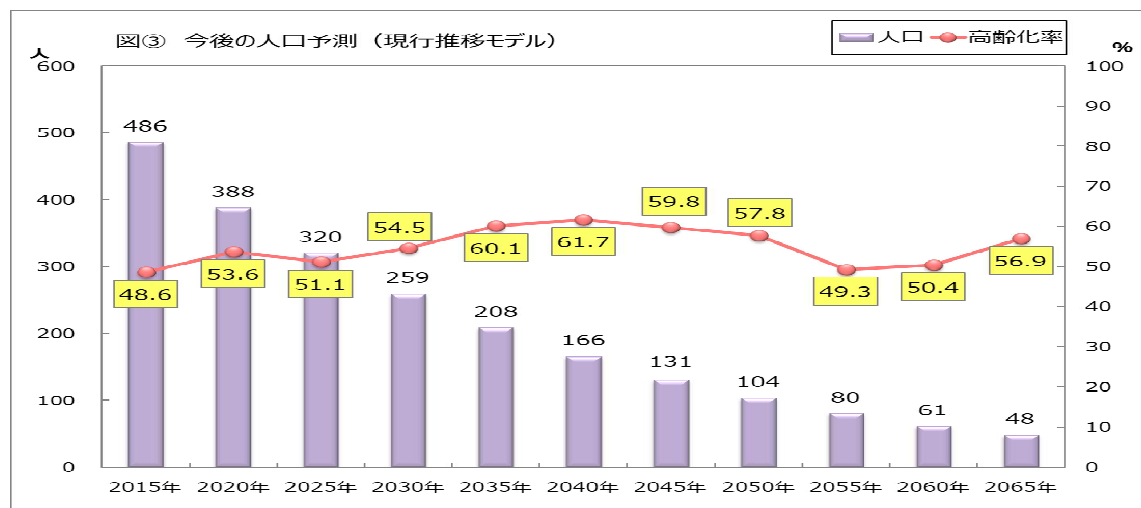
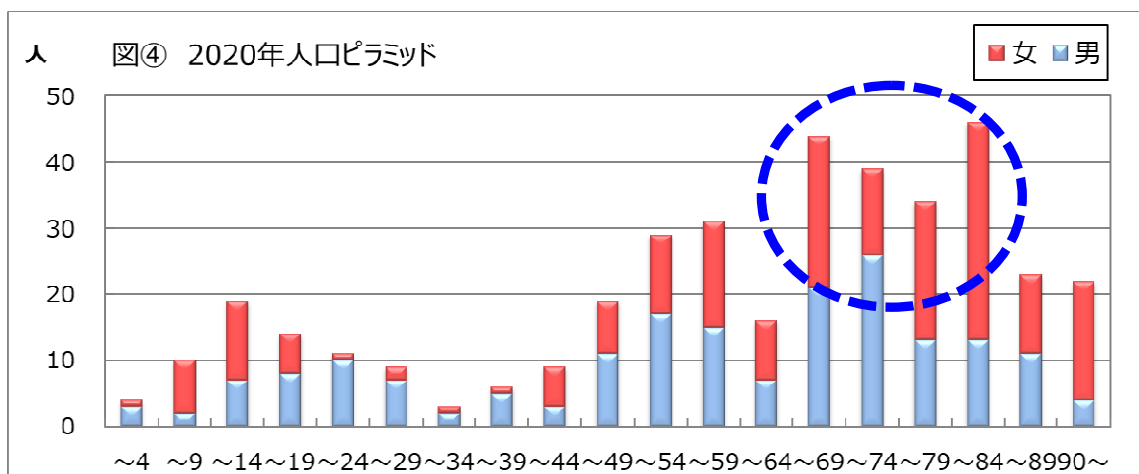
将来にわたって、明るい地域づくりの礎となる事を祈念し、横林地域づくりの基本計画を策定します。

【横林の位置】



【2】人口の推移

令和5年2月末の地区内人口は346人。前回の計画策定時平成24年4月1日の人口537人から30%以上減少が見られます。10行政区の内、すでに6行政区で高齢化率が50%を越え地域に主力世代は60代後半から80代前半（※下記図④参照。）となっており、地域内で小学生は9名、中学生は8名、4年間新生児の誕生はありません。このままでは2065年の横林人口は48人まで減少する予測もあり、コミュニティや自治機能は元より、地域の存在自体が危ぶまれる状況です。



| 行政区 | 世帯数 | 人口 | 行政区 | 世帯数 | 人口 |
|-----|-----|----|-----|-----|----|
| 奈良野 | 26 | 48 | 大領地 | 7 | 15 |
| 大成 | 13 | 23 | 坂石 | 26 | 65 |
| 堂野窪 | 21 | 42 | 高丸 | 17 | 27 |
| 松尾 | 25 | 46 | 長谷 | 10 | 21 |
| 河成 | 19 | 43 | 汗嵐 | 9 | 16 |

【合計】 173世帯 346人

【3】横林自治振興協議会の組織

横林自治振興協議会役員組織図

| 本部役員 | | 監事 |
|-------------|--------|------|
| 会長 | 区長会長 | 監事2名 |
| 副会長（2名） | 担当職員代表 | |
| 事務局長・地域任用職員 | | |

| 常任委員会（※役員会） | | | |
|-------------|-----|-----|------------|
| 本部役員 | 各部長 | 区長会 | 各部長事務局担当職員 |

特別（実行）委員会など

| 産業振興部会 | 教育福祉部会 | 環境防災部会 | 横林地区 区長会 |
|---|---|--|---|
| 部会長1名 副部会長1名 事務局1名 | 部会長1名 副部会長1名 事務局1名 | 部会長1名 副部会長1名 事務局1名 | 区長会会長 // 副会長 |
| ◇ 農林業振興協議会 ◇ 農業委員 ◇ 農青連 ◇ 坂石郵便局長 ◇ 商工会関係 ◇ 婦人会 ◇ 財産区議会 ◇ 森林組合理事 ◇ 学識経験者 ◇ 地域担当職員 | ◇ 体育協会 ◇ 老人クラブ ◇ 婦人会 ◇ 青年団 ◇ 分館主事会 ◇ 結婚推進協議会 ◇ 愛護班 ◇ 学識経験者 ◇ 地域担当職員 | ◇ 消防団 ◇ 坂石駐在所 ◇ 自主防災クラブ ◇ 駐在所連絡協議会 ◇ 民生委員 ◇ 漁業組合 ◇ 学識経験者 ◇ 地域担当職員 | ◇ 奈良野区長 ◇ 大成区長 ◇ 堂野窪区長 ◇ 松尾区長 ◇ 河成区長 ◇ 大領地区長 ◇ 坂石区長 ◇ 高丸区長 ◇ 長谷区長 ◇ 汗嵐区長 ◇ センター主事 |

地域住民

【4】横林の誇りと不安

人口が減少し、年齢構成にも変化が生じる中で、地域課題も生活に直結する不安や困りごとが生じ始めています。そこで、中学生以上を対象とした住民アンケートを実施しました。

これからの地域づくりには、地域への愛着や誇りの醸成はもとより、これまで以上に地域の課題に向き合い、不安に寄り添った取組が求められています。

【地域住民アンケートより】

Q：不安、困っていること

- 第1位：畑や山林の維持管理
(13.3%)
- 第2位：家や集落の後継者
(10.7%)
- 第3位：道路、水路の維持管理
(10.4%)
- 第4位：集落機能の維持、存続
(9.8%)
- 第5位：草刈りやゴミの処分
(9.1%)

Q：地域の誇り

- 第1位：助け合いや人情
(28.3%)
- 第2位：景観や自然環境
(24.1%)
- 第3位：地域に暮らす人々
(16.9%)
- 第4位：伝統や文化
(7.5%)
- 第5位：地域の農産物
(7.2%)

【5】横林のこれから

令和5年度からの地域づくり活動センター移行にあわせ、令和2年度より地域の役職者に加え若手世代を交え、地域の将来を見据えた検討を行ってきました。



今後5ヵ年においては、地域の実情を見つめ、持続可能な地域づくりに向け以下の5点を重点目標として取り組むたいと検討しています。

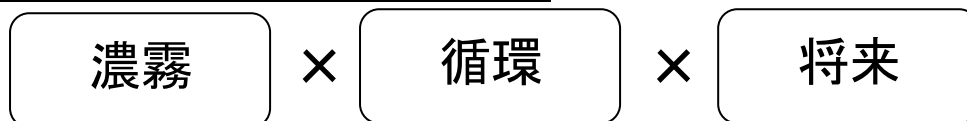
(1) 農産物を通じた地域ブランディング(産業振興)

主たる産業が農林業である当地域では、特産品の原木椎茸を皮切りに農産物を通じた地域ブランディングに取り組めます。これからの時代の食に求められるのは『再生+循環』であり、農林業を通して自然が豊かに育まれるように『食』をデザインし、食の循環経済の成立を目指します。

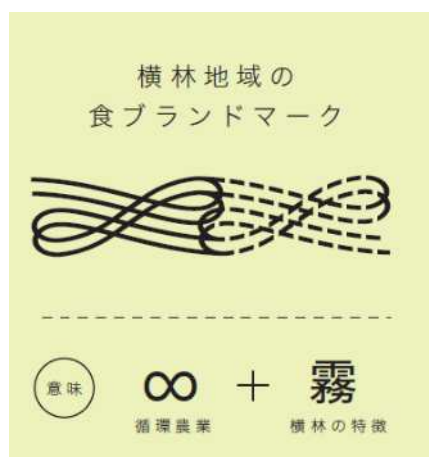
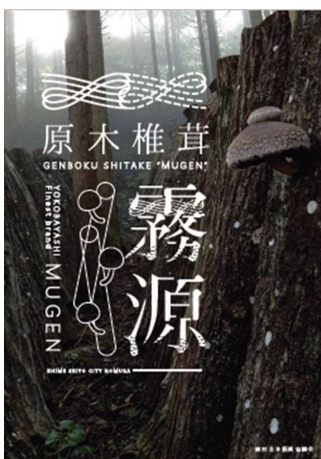
(事業計画)

- ・ブランド化(『霧源(MUGEN)』)による所得の向上と生業づくり
- ・後継者、新たな担い手の確保
- ・農産物を通じた関係人口づくり、横林ファンの獲得

□霧源(MUGEN)に込めた願い



※原木椎茸「霧源」には、地域の自然環境と循環型の原木椎茸栽培を始めとした地域の循環と、横林の将来に渡る無限の可能性への願いが込められています。



※横林原木椎茸栽培のプロモーション映像は、[横林自治振興協議会 Youtube チャンネル](#)よりご覧いただけます。

(2) 人づくり、1人1人の個性が生きる地域づくり(教育)

地域づくり活動センターへの検討を進める中で、地域の若手世代が真剣に地域の将来を考える機運が生まれ、地域コミュニティや人口減少対策を見据えた地域づくりに少しずつ取組み始めています。若手のアイデアや行動力に、ベテランの知識と経験を融合し、地域の人材育成を進めます。

また、これまでの活動で培った関係人口である地域外の人材（デザイナーや映像作家、ファシリテーター、建築士、移住コーディネーター）や大学生との協働による取組も積極的に推進し、化学反応を誘発し1人1人の個性や得意が活かせる環境づくりに努め、特定の個人のリーダーシップや能力に過度に依存しない、体制づくりを進めたいと思います。

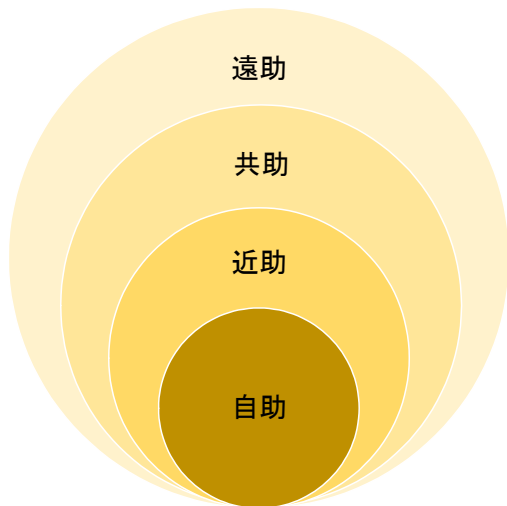
(事業計画)

- ・ 1人1人の出番を創出
- ・ 研修やセミナーなど学習機会の提供
- ・ 想いやアイデアを形にできる協力体制の構築



(地域づくり活動センター検討委員会 未来創造班のメンバー達)

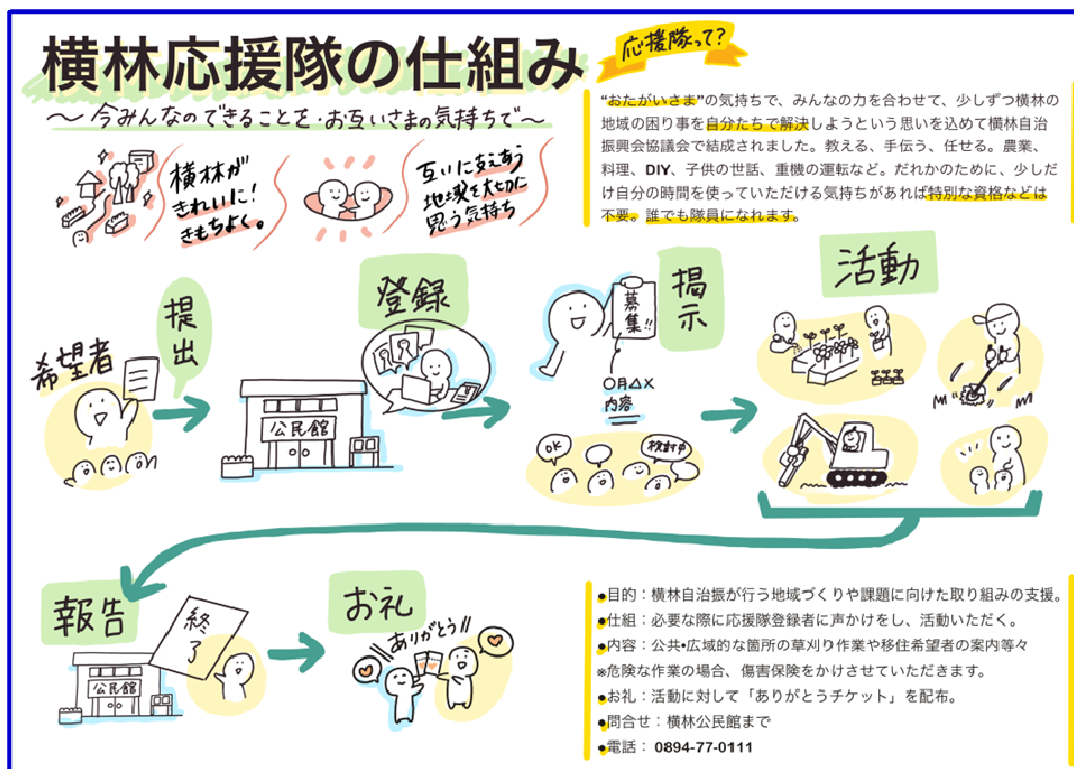
(3) 自助・近助・共助の仕組みづくり(福祉)



人口が減少する中で、これまでの地域コミュニティにも変化が生まれます。

近い将来には、集落の自治機能も大きく低下する事が予想され、これからの時代に即した仕組みづくりが求められています。まずは地域の現状を的確に把握し、地域住民が「お互いさま」の気持ち

で助け合える仕組みづくりを目指します。そして、これからの「共助」を担える住民組織の育成に努めます。



(事業計画)

- ・ 集落カルテの作成
- ・ 自助、近助、共助の将来設計
- ・ 横林応援隊の育成

(4) 暮らしやすい地域づくり(環境)

地形的な特徴からも横林での生活には自動車での移動が欠かせません。しかしながら、高齢化し自家用車の運転も困難な方が増加するなかで、いつまでも住み慣れた地域で暮らすためには、地域に合った公共交通を検討する必要があります。

◆横林在住の75歳以上の高齢者92名の内、72名の方に、普段の生活の足について、聞き取り調査を実施しました！

問1 自動車免許の有無について

| | |
|---------|-------------|
| 所有している | 59.7% (43人) |
| 返納した | 15.3% (11人) |
| 所有していない | 25% (18人) |

問2 自動車の所有について

| | |
|------------|-------------|
| 常に利用している | 41.7% (30人) |
| 常には利用していない | 2.8% (2人) |
| 利用していない | 55.6% (40人) |

問3 【お出かけについて】

1) 週に何回お出かけされますか？

| | | | |
|------|-------------|--------|-------------|
| 週に1回 | 21.1% (15人) | 週に5回 | 1.4% (1人) |
| 週に2回 | 12.7% (9人) | ほぼ毎日 | 11.3% (8人) |
| 週に3回 | 22.5% (16人) | 月に1～2回 | 21.1% (15人) |
| 週に4回 | 7% (5人) | ほぼ出ない | 2.8% (2人) |

横林には現在、生活交通バス、宇和島バスが運行していますが利便性は決して高くありません。

地域と行政が協働し、人・モノの移動、物流を含めたこれからの『地域の足』を検討していく必要があります。

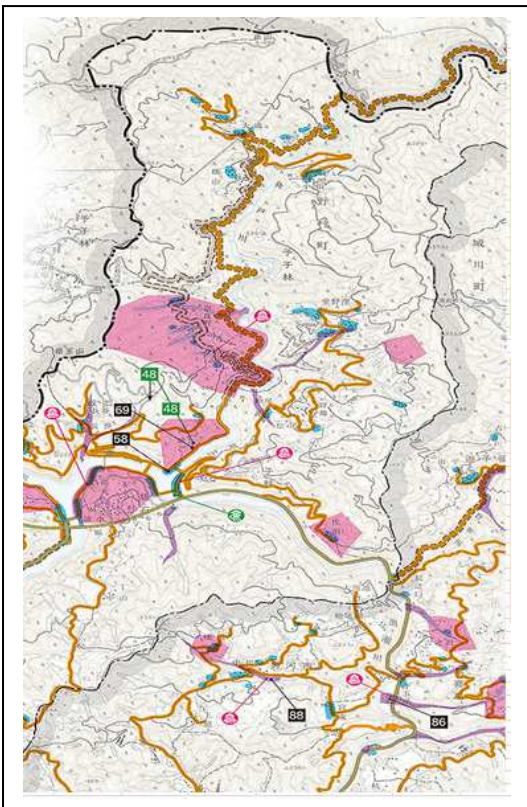
(事業計画)

- ・「地域の足」検討委員会の設置
- ・交通課題の整理、暮らしにおける課題の整理
- ・先進地視察研修
- ・センターや地域内店舗が連携したサービス計画の策定

(5) 安心な地域づくり(防災)

横林は5年前の西日本豪雨災害時においても、崩落により一時集落が孤立した状況も発生しており、地域の自然条件からも災害が起こりやすい地域です。

今後南海トラフといった大規模な災害の危険性が高まる中、地域の防災力を向上させる取組を進める必要があります。



横林地域においては、地形的な特徴からも過度に公共施設の避難所に依存することなく、集落単位での避難行動が大切です。

消防団員の確保も困難になる中、自主防災クラブや婦人会を始め地域みんなで支え合える体制づくりを進めます

また、愛媛大学と実証実験に取り組んでいる、「逃げおくれゼロアプリ」やドローンといった ICT 機器も取り入れながら、地域の防災力を高めていきたいと思えます。



(防災 WS の様子)



(防災訓練の様子)

(事業計画)

- ・ 防災訓練の実施
- ・ 逃げ遅れゼロアプリ、ドローンの導入、活用
- ・ 横林防災計画、要支援者個別避難計画の策定

推進目標ごとの実施計画(案)

| | 推進目標 | 事業名 | 事業内容 | 実施予定年度 | | | | | 備考 |
|----|--------------|--------------|------------------|--------|---|---|---|---|----|
| | | | | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | |
| 1 | 農林業が元気な地域づくり | 販路開拓事業 | 飲食店への販売、ECサイトの活用 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| 2 | | 新規就農者支援対策事業 | 担い手の受入、講習、農地集約 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| 3 | | 農業体験事業 | 交流イベント、オーナー制度の実施 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| 4 | 人が輝く地域づくり | 地域づくり人養成講座 | 人材の育成 | | ○ | | ○ | | |
| 5 | | ステップアップセミナー | 学習機会の提供、スキルアップ支援 | ○ | | ○ | | ○ | |
| 6 | | へらぶな塾 | 子育て支援、学力向上、自然体験 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| 7 | 支え合う地域づくり | 集落实態調査 | 集落カルテの作成、集落診断 | ○ | ○ | | | | |
| 8 | | 限界集落対策事業 | 自治機能の補完、支援 | | | ○ | ○ | ○ | |
| 9 | | 横林応援隊育成事業 | 共助組織の育成 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| 10 | 暮らしを守る地域づくり | 地域の足構築事業 | 地域交通の検討 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| 11 | | 先進事例調査研究事業 | 先進事例の検討 | ○ | | ○ | | | |
| 12 | | ライフライン維持管理事業 | 社会インフラの維持管理 | | | | ○ | ○ | |
| 13 | 安全・安心な地域づくり | 地域防災計画策定事業 | 地域防災計画の策定 | ○ | | | | | |
| 14 | | 防災力向上事業 | 防災物品の整備 | | ○ | ○ | | | |
| 15 | | 防災訓練実施事業 | 防災訓練の実施 | ○ | | ○ | | ○ | |